6-21　実践協力校における授業実践
事例㉑　秦野市立大根中学校

ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **課題について考える**
- **再構築した自分の考えを表明する**

Ⅰ　単元計画

1．単元名　「ＳＤＧｓについて考え、自分たちでできることを実践しよう」

2．単元の目標

・ＳＤＧｓについて、多面的・多角的に様々学習し、世界が共通してもつ問題について考え、さらに自分たちでもできる解決策を発表し、みんなに広めて行動する。

3．単元の指導計画（９時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
１～２	◇ＳＤＧｓについて知り、なぜ今考えなければいけないかを理解する。 ◆パンフレットや世界の環境問題などの映像を見て、自分にできることについて考える。
３～６	◇自分が興味をもった開発目標を選び、その内容を理解し、自分たちがやるべきことを考える。 ◆各自のタブレットを使って、自分が興味をもった開発目標について発表できるようにまとめる。
７～８	◇みんなに呼び掛けたいことを適切な言葉を使い、ポスターに表現する。 ◆美術の時間を使って、呼びかけたいことを伝えるポスターを作成する。
９ 本時	◇自分がまとめたものを、プレゼンテーションソフトを使ってみんなが理解できるように発表する。 ◆各自がまとめたものを発表し、ポスターを見せながら、どのように実践していけばよいかを理解する。

Ⅱ　本時の様子

1．本時の目標

○自分が調べたことや、感じたことをまとめて、今後実践していくことを発表することができる。

○友達が発表したことを理解しようとしている。

「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点

2．本時の展開

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	①なぜ、今ＳＤＧｓを考えなければいけないのか、今までの授業で取り組んできたことを振り返って確認する。 ・今日の授業のポイントを確認する。	身の周りのできごとに関心をもつ

ＳＤＧｓについて友だちの発表を聞き、自分の考えを深め、行動しよう。

展開	②各自で、調べて考えたことを、タブレットとテレビを使って発表する。 （Ｔ２～Ｔ４）発表の手伝いをする。 ※（Ｔ１）一人で上手に発表できない生徒を助ける生徒をお願いする。 ・「自分たちでできること」の行動をまとめたポスターを見せ、発表する。 ・発表を聞く生徒は、各発表に対してのメモをとる。 ＜発表内容＞ Ｓ：５番（「ジェンダー平等を実現しよう」）を選びました。理由は、男の子も女の子も悲しまないように。女の子だから学校に行けない人がいる。私たちにできることは、『男だから』『女だから』を見直してみよう！ということです。 ③各発表に対する感想を言う。 Ｓ：〇〇さんの発表がよかった。 Ｓ：そんな状況だったのを知らなかった。 Ｓ：自分もやってみようと思った。 	課題について考える。 友達との考えを聞き、自分との共通点や違いなど、いろいろな意見があることに気付くことができる。 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する。 再構築した自分の考えを表明する。
まとめ	④これからすぐに主体的に行動できることがたくさんあることを理解し、他の生徒に広めていけるように次のステップを確認する。 ・ポスターを校内に貼って、他の生徒の行動を促す。 Ｔ：どこに貼ったらいいかな。 Ｓ：校長室や職員室の前！ Ｓ：階段や玄関に貼りたい。	自分自身を振り返る。 主体的に社会に参画する。 **目指す子どもの姿** ・身近な問題を自分のこととしてとらえ、行動していく姿。

Ⅲ　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

「自分のこと」として捉えるからこそうまれる「葛藤」を大切にしましょう。

「小・中学校における政治的教養を育む教育」で一番大事なことは、「『自分のこと』として考えること」です。ＳＤＧｓの課題も「だれかがやってくれるだろう」というような他人事のような提案にならないようにすることが大切です。実践につなげるために、自分に何ができるかを考えられるようにしましょう。

しかし、実践をしていくと壁にぶつかる場面があります。例えば、プラスチックの問題を考えたとき、「プラスチックを減らしていかなければならないのに、私は生活の中でたくさんのプラスチックを使っている…。」というような場面です。このように、課題を自分のこととして捉えるからこそ、衝突することがあります。自分自身の課題を考えたときに起こる「葛藤」は、その課題を自分のこととして捉えている証拠です。

ＳＤＧｓのような世界全体の課題の場合、生徒の日常生活からは想像できない場合もあります。生徒自身の中にある思い、考えが衝突しているときは、自分自身の考えにおりあいをつけることも重要です。衝突が怖くなって自分の意見を言わなくなってしまわないためにも、教師が生徒自身の中に起こる「葛藤」を理解し、考えを整理させることや、発信・表現し続けることの重要性を児童・生徒に伝えていくことが重要です。

ポイント2

「社会参画」を意識して取り組みましょう。

「中学生にとっての社会参画」を実現するために重要なことの１つに、自分の思いを伝えることがあります。意思を表現したことが、「自分の考えを持ち、表現できたね。」「自分の思いを伝えることは大切だね。」と言ってもらえる成功体験につながっていくことが重要です。このような経験の積み重ねが、自分の考えを伝え、社会参画につながることの必要性や重要性に気付くようにします。

さまざまな教育活動の場面で、自分の考えや意見を言い、そのことが認められる機会をたくさん作りましょう。自分の言葉として、相手に伝えることや伝えようとすることが社会参画へと繋がっていきます。

ポイント3

ポスター、ＩＣＴ、新聞など、自分の考えを表現するツールを活用しましょう。

自分の考えを表現するツールとして、ポスターを作成したり、プレゼンテーションソフトを活用したりすることが考えられます。ポスターやプレゼンテーションソフトを活用した発信は、イラストなどを取り入れることで情報を視覚的にとらえることもでき、いろいろな人にわかりやすく伝えることができます。また、授業で調べたことや調べて考えたことなどについて、新聞を作成し、全校生徒に配付することも表現方法の一つです。また、効果的にツールを活用することだけでなく、校内のどの場所から、全校生徒に発信するか、ということも重要になります。



Ⅳ　研究協議

１．自評

生徒は長い期間でこの課題について、いろいろな角度から考えることができた。ＳＤＧｓというテーマは生徒自身の生活からは少し遠い社会的な課題として捉えているのではないかと考え、未来の自分を想像してから、「今」について考えるようにした。自分の中で気になることを見つけられるよう、課題となる資料を見るなど、一緒に勉強してきた。

発表については、ポスターやＩＣＴを使用した。見本を見せてから作成したことで、絵による自分の発表内容を再構築することができた。感想を言う場面では、もう少し自分の言葉で言えるとよかった。

２．研究協議のテーマ　＊令和３年度は共通テーマで協議を実施。

○提案授業の生徒の姿から、「小・中学校における政治的教養を育む教育」で大切にしたい学習活動（学びのプロセス）は、効果的に取り入れられていたといえるか。

３．研究協議の成果と課題

成果・「ＳＤＧｓ」という大きな課題について、それぞれが興味をもったことについて調べられていた。それぞれの生徒にとって、自分なりの自分自身との近さがあったのではないか。自分のこととしてとらえるには、社会参画につなげていくことを目的においているが、社会という認識を大人がどのようにとらえているかが大切なのではないか。

・友だちを助けるという活動は他者貢献につながる。他者に対していかに貢献できるかは、今後の主権者教育の課題ではないか。どのような社会を築いていけるとよいのか、望みをもっていくことが大切。

課題・生徒にとって身近でない（ＳＤＧｓの）課題は、生徒自身が困っていないことが多い。自分自身の身近な問題として関連させていくことが必要。そのためには、その課題について掘り下げて考えていく方法もあるのではないか。